

ハービー・山口
作品展

令和7年度 福島市写真美術館 企画展



1996.7.6 TOMORROW

2204

代官山17番地 -消えゆくものへの憧れ-

かつて「代官山17番地」に存在した同潤会代官山アパート。

蔦の絡まる独特な外観の住居棟や食堂に公衆浴場、おしゃれな店や若者たち、そして、ここに住む人々や子どもたち。

自然と建物と老若が独特の美しさを醸し出していた「あの日」の姿が甦る。

2025

11.8sat→12.7sun

〈会場〉福島市写真美術館（愛称：花の写真館）

〈開催時間〉9:00～16:30（最終入場16時まで）

〈観覧料〉一般300円／高校生以下100円／未就学児無料

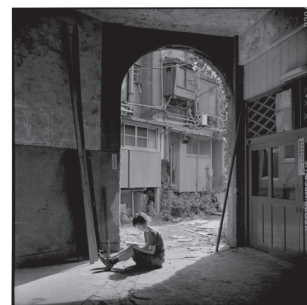
ハービー・山口氏
ギャラリートーク

事前申込制・先着40名

2025 11.22 sat 13:30～

〈参加料〉当日観覧料のみ

〈会場〉2階 多目的室

※お申込は右記二次元コード
またはお電話にて

1996.7.18

お問い合わせ

福島市写真美術館
（愛称：花の写真館）〒960-8002 福島県福島市森合町11番36号
TEL 024-563-4990 FAX 024-563-4992花の写真館
Fukushima city
museum of photography

〈主催〉福島市写真美術館（公益財団法人 福島市振興公社）、福島市 〈協力〉一般財団法人 日本カメラ財団（JCII）、ハービー・山口
 〈後援〉福島民報社、福島民友新聞社、福島テレビ、テレビユー福島、福島中央テレビ、福島放送、ラジオ福島、福島コミュニティ放送FMボコ

令和7年度 福島市写真美術館 企画展

ハービー・山口 作品展



プロフィール

写真家。1950年東京都出身。中学時代に写真部に入る。東京経済大学卒業後、23歳から10年間ロンドンに在住。現地の劇団で役者となり100回の舞台出演を経験。折からのパンクロック全盛時代のロンドンカルチャーを活写し代表作の一つとなった。

帰国後もBOØWY、吉川晃司、福山雅治などのアーティストから、若者をはじめとする市井の人々を撮り続けている。幼年期に患った腰椎カリエスを克服したことから「生きる希望」を写真のテーマとし、モノクロームの清楚な作風は幅広い年代層から支持されている。

エッセイ執筆、ラジオのパーソナリティ、ギタリスト布袋寅泰には数曲の歌詞を提供するなど幅広く活動している。

2011年度日本写真協会賞作家賞受賞。

作家名のハービーは敬愛するジャズフルーティスト、ハービー・マンより。

代官山17番地
「消えゆくものへの憧れ」



1996.8.13

1996.5.26

1996.8.20

1996.9.8



「花」：秋山庄太郎 書

news!



福島市写真美術館（愛称：花の写真館）

〒960-8002 福島県福島市森合町11番36号
TEL 024 (563) 4990



公共交通機関をご利用の方は

- 路線バス【乗車場所】福島駅東口停留所(9番ポール)
コース①:「市内循環もりん2コース」乗車(約5分)→「福高前」下車→東へ約1分
コース②:「市内循環もりん1コース」乗車(約17分)→「福高前」下車→東へ約1分

お車をご利用の方は

- 東北自動車道 飯坂インターから市街方面、国道13号を経由 約15分
 - 花の写真館駐車場 13台 ※おもいやり駐車場含む
 - 臨時駐車場(保健福祉センター第2駐車場 約40台 徒歩5分)
- お車の駐車台数に限りがありますので、乗合せか公共交通機関のご利用にご協力ください。

- MOMORINシェアサイクル こちらもご利用ください。
- 福島駅東口より徒歩 約15分



アクセスマップ

